

サウ-デ教会女性部会報

2015年 4月 N° 281



巻
頭
言

阿部 カルメン 先生

「神は愛です」

第一ヨハネ 4章 7〜13節

「1」神はキリストによって私たちを

生きるようにしてください

1、神の愛

イエスを信じ受け入れることによって神の愛が明らかになり、さらにその愛を知れば知るほど、理解すればするほど、私たちの心は喜びと平安に満ち溢れてくる。

2、聖霊を受ける

イエスを受け入れた者はその霊をも受け、私を

もくじ

ページ

- 巻頭言 「神は愛です」 阿部カルメン先生 ②
- 救いのあかし 須山フミ ④
- あかし
- 水上すみ子 ⑤ 川野節子 ⑥
- 益本藤子 ⑦ 蛸井恵子 ⑧
- 謝敷スエリー ⑨
- ちよつと立ちばなし 原田泰子 ⑫
- みことばの小箱 ⑬〜⑮
- 栃沢千秋・山田初子・石田喜子・須山フミ
- 松井明子・山内佳子・土屋礼子・高田信子
- 活動報告／希望の家 ⑯ひまわり学園 ⑰
- 俳句 松井明子・益本藤子 ⑱
- 詩 m・n ⑲
- ほうこく 鈴木弘子 ⑲
- おためしあれ 長谷川美代枝 ⑳

聖霊の宮としてくださり、私の所有者となつてくださる。

3、アバ・父よ

霊を受けた者は、神様を「お父さん」と呼ぶようになる。神様もまた、そう呼んでもらえることを喜んでくださる。そのような関係を壊さないようにしなければならぬ。イエスは「私にながっていない。そうすれば樹液をあげる」とおっしゃられた。

「2」聖霊の証印

イエスを信じた結果、聖霊の証印を押される。それは、神の国を継ぐ保障を与えらるということ。だからこそ、生きる喜びをもって神様の栄光を褒め称える者となる。

「3」神の聖霊を悲しめてはいけない

1、聖霊の働きの中で

「聖霊に満たされているから」と思い込んで傲慢になつてはいけない。それこそ悪魔に捕らわれてしまうことになる。私たち人間はどうしても間違いを起こしてしまふ。しかし、そのたびに「神様ごめんなさい」と告白していくとき、神様は聖霊の働きの中心に入れてくださつて御言葉をもつて諭してください、また赦してください。

2、互いに足を洗い合う

イエスは弟子たちの足を洗い、あなたたちも私のようにしなさいと命じた。足は毎日の歩みの中で常に汚れる。イエスは自分で洗えとは言わず、互いに洗

い合いなさいと命じられた。それは、互いに罪の告白をし合つたり証しを分かち合つたり、祈り合つたり助け合つたりしなさいということ。

「4」目標

1、全き人 (エペソ4:13)

神様は私たちに天使のようになりなさいとは、おつしやつていない。「人は人らしく愛において完全な者(全き人)になりなさい。そして、霊に満たされ喜びと平安をもつて神様の栄光を褒め称える者となりなさい」と言われている。さらに信仰(信じ)て教えに従う)を与えてくださいと願ひ祈つていきましよう。



特集

救いのあかし

とくしゅう



信仰の道へ導かれた
きつかけから現在について
お話をうかがいました

*2年を過ぎたころ、美香先生から受洗を勧められる
*その頃には、イエス様を信じていたので喜んで受洗した
現在では、

須山フミ姉



受洗日2007/12/23

*クリスチャンの息子に「日本語ばかりで話す所があるよ」と紹介された

*「じゃ、いいね」と気楽な気持ちで行ってみた
*看板もない建物に恐る恐る入ると、美香先生や山田姉に「よくいらつしやいました」と明るく出迎えてもらつた

*驚きながらも嬉しくて、毎週通うようになった

祈りの課題

*出来る限り自分の足で教会へ通えるように

◇◇◇
仏教一筋から一変、80歳を超えてからの

教会生活。温かく迎えてくれる皆さんと、先生方のお話に心惹かれ通い始めた。「足が辛い朝もあるんだけど、行けば何とかなるだろうと途中まで行くと思議に足が楽になるんです。だから、いつも自分に言い聞かせるんです。ぐくじけちゃいかん。頑張りなさい」って。また、「洗濯機が突然、動かなくなつた時、以前、美香先生もそんなことがあつて、『祈つたら時間が経つて動き出した』と聞いたのを思い出し、『神様、私にも同じようにしてください！』と祈り出かけて帰つてみると、なんと動いていた。いや、助けていただいたと思つて嬉しかったですね」。いつも、「信仰のことや証しはちょっと...と躊躇われるが、そのお元気で明るい声から、次々と主の恵みがあふれ出る。それは、いただく御言葉を自分の事として純粋に受け取り、イエス様と共に日々、前向きに生きておられるからだろう。

罪人である事を確信し、悔い改めました。1994年10月12日に長田牧師から洗礼を受けます。そして、2013年2月3日に転入会員受入式を丹羽牧師によつて執り行なつていただき、私たちジアドーマより12名が当教会員として共に歩ませていただく事になりました。感謝でいっぱいです。それから出来る限り毎日曜日の礼拝と聖研会に参加しています。いつも優しい先生方に迎えていただいて心から感謝しています。また、愛する兄弟方とお交わりが楽しく、日曜が来るのを楽しみに待っています。これも偽りの無い信仰を持って生きていきたいと思つて、御言葉の勉強に励んでいます。

新聖歌355

ひと足ひと足 主にすがりて
絶えず 絶えず われは進まん

あかし



恵みの神

みずかみ 水 子 すみ子

1989年、阿部カルメン先生に誘われて、先生の家で行われていた家庭集会に参加するようになりました。それまで私は熱心なカトリック教徒でした。でも、聖書を一度も開いた事がありませんでした。この貴重な書物を詳しく説明していただくにつれてびっくりし、神様に心から感謝しました。そのうち、ジアドーマ教会に通うようになり、長田忍先生から洗礼を受けるように勧められましたので、カルメン先生に洗礼について学びました。そして、主イエス・キリストが私の救い主である方だと信じる事が出来ました。自分が

イエス様に守られて
かわの 川野 節子

今年で信仰をもつて12年になります。これまで大きな苦しみもなく幸せな毎日を過ごしてきています。それもすべては、主イエスに守られているお蔭だと本当に感謝しています。

先月のこと。壁にかけてある時計の時間を直そうと、椅子に上がって時間を合わせ、いざ降りようとしたとき、なぜか隣にあるソファの方から降りた方がいいように思え、片足を置いた途端、そのまますべって落ちてしまいました。頭と足を強く打ち、床に四つん這いになったまま起き上がれなくなりました。普段は自分の体重など気にしたこととはなかったけれど、この時ほど重たく感じたことはありませんでした。その時、同居する息子夫婦は留守で、電話も取れず、このまま何時間過ごせばいい

のかと不安になりました。でもすぐに、大したケガではないことが分かったので、「イエス様ありがとうございます。打ったけど何ともなさそうです。ありがとうございます。守ってくださいあってありがとう」と祈りました。それからゆつくり起き上がることができました。後で二人の息子夫婦に話すと、とても心配され怒られました。今回ばかりは自分でもビックリしたので、これからは何をすることも気を付けようと心に決めました。この歳になると、ちよつと転ぶだけでも大ケガになりやすいと聞きますが、この度は何事もなくて本当に良かったと心からイエス様に感謝し、是非、証しさせていたきたいと思います。



ラジルに骨を埋める覚悟でやって来ました。それから次女を白血病で亡くし、夫も弱く早死にしまいました。こちらに来てからも色々なことがありました。そして、援協のお世話でリベルダージのホザナ教会の林先生に導かれ、ジャバクアラの教会に来てみますと、驚いたことに昔、教会で歌っていた「主われを愛す」「まもなくかなたの」を歌うではありませんか。嬉しくて嬉しくて、暑くても寒くても熱心に通い、それまでであった仏壇も捨てました。それから、自分の頑固さや今までの一切の罪を反省し、ハンカチを絞るほどの涙を出しました。そして、川で洗礼を受け一度死にました。お蔭で今は本当の自由が与えられ感謝です。

望みを抱いて喜び、患難に耐え、
絶えず祈りに励みなさい。

ローマ11章 12節／新改訳

望みの主 益本 藤子

私の生家は長屋続きで表通りにはいろいろな店と並んで天神宮がありました。神主のいない時、子供たちが集まって庭でかくれんぼや通りゃんせ、牛の像に乗ったりと走り回って遊んでいました。そんなある日、若い婦人二人に、「教会に来ませんか？」と声をかけられました。母の許しを得て一つ上の兄と毎週日曜日に行き始めました。ナタールには多くの人が集まり、帰りにはいっぱいみかんをもらって帰ったりしました。満州事変、支那事変を経て、小学校3年生で父を亡くしてからは母の田舎の里山で暮らしました。大東亜戦争中に結婚。しかし、結婚生活はわずか3年で、夫は初子の顔も見えず原爆で亡くなりました。その後、再婚し、44歳の時に家族6人でブ

永遠の命

蛸井 恵子

昨年7月の信徒講座でヨハネ11章を学んでいるとき「永遠の反対は時間ですね」と、丹羽先生がおっしゃいました。私はすぐくびつくりし、同時に「ああ、それから私にも分かる」と、それまでモヤモヤとたちこめていた霧が一瞬にして晴れ渡ったようなそんな気持ちになりました。というのは、何年もの間、教会で「永遠の命」について学んできた筈なのに私はどうして悟ることが出来ず、最近では「ただ信じていく他ない」と半ばあきらめの境地でおりました。本当の喜びを知らない見せかけの、言わば芯の無いクリスチャンだったのです。けれども「永遠の反対は時間」という言葉はまるで秘密の扉を開く鍵のように、イエス様は時空を超えて存在する方であり、「永遠の命」

をいただくということは、この世の営みとは次元を異にする、真に人知では計り知ることのできない、もの凄(すこ)い恵みであるということをお分(わか)らせてくれました。何(なん)という嬉(うれ)しさ、何(なん)という有難(ありがた)さでしょう。丹羽(にわ)先生の言葉(ことば)で目(め)が開(ひら)かれ、永遠(えいえん)の御国(みくに)の素晴(すば)しさの一端(いったん)を理解(りかい)させていただきました。そして聖書(せいしょ)の中でイエス様(さま)のおつしやることが、おぼろげながら分(わ)かるようになりました。すると、お弟子(でし)達(たち)やイエス様(さま)を取り巻(ま)く人々(ひとびと)の思(おも)いが事(こと)のように感じ(かん)じられ、私(わたし)もまた熱(あつ)い思(おも)いで、心(こころ)を込(こ)めて聖書(せいしょ)を讀(よ)むことが出来る(でき)ようになりました。

このような体験(たいけん)の後(のち)、私(わたし)の執(と)成(せい)の祈(いの)りが変(かわ)りました。夫(おつと)と子孫(こども)と孫(まご)たち、そして友人(ゆうじん)のために、イエス様(さま)を信(しん)じる信仰(しんこう)をお与(あた)え下さいと素直(すなお)に心(こころ)の底(そこ)から祈(いの)るようになりました。人(ひと)として「永遠(えいえん)の命(いのち)」をいただく、これ以上(いじょう)の幸(しあわ)せは無(な)いという

娘(むすめ)の進学(しんがく)に當(あた)って日本(にほん)での生活(せいかつ)の道(みち)を示(しめ)され、先(さき)に発(た)った主人(しゅじん)の元(もと)へ行く(い)ことになりました。

その間に色々(いろいろ)ありましたが一番(いちばん)の恵み(めぐみ)はサウード教会(きょうかい)で主人(しゅじん)と父(ちち)が受洗(じゅせん)したことです。長年(ながねん)、重荷(おもに)を感じ(かん)祈(いの)り続(つづ)けていた私(わたし)にとって大(おお)きな喜(よ)びでした。特(とく)に父(ちち)はとて(きび)しく、子孫(こども)の私達(わたしたち)でさえ近(ちか)づけない怖(こわ)さをもった難(むずか)しい性(せい)格(かく)の人(ひと)でした。それ(は)でも母(はは)は、ひたすら忍(にん)耐(たい)と愛(あい)をもつて献(けん)身(しん)的に仕(つか)えていたのです。なんとか少(すこ)しでも父(ちち)にイエス様(さま)のことを知(し)って欲(ほ)しくて、兄(あに)弟(てい)達(たち)家族(かぞく)と毎(まい)週(しゅう)、家庭(かてい)集(じゅう)会(かい)をもつことになりました。父(ちち)は最(さい)初(しょ)、自(じ)分(ぶん)の部屋(へや)から出(で)て来(こ)ようとはしませんでした。日本(にほん)語(ご)の讚美(さんび)歌(か)に誘(さそ)われるようにして次第(しだい)に顔(かお)を出(だ)すようになりました。その後(ご)、教(きょう)会(かい)へ行(い)き、受洗(じゅせん)するとは本(ほん)人も思(おも)ってい(な)かったこと(で)し(よ)う。

それから母(はは)をこ(ち)らの教(きょう)会(かい)へ誘(さそ)いました。日本(にほん)語(ご)

確信(かくしん)が与(あた)えられた(か)ら(で)す。

これからもイエス様(さま)の真(ま)理(り)を学(まな)び求(もと)めていきたく(と)願(ねが)って(お)り(ま)す。



神様の使命

スエリ一謝敷

日本(にほん)から戻(もど)って丸(まる)4年(ねん)が経(た)ちました。最(さい)初(しょ)は母(はは)の看(かん)病(びょう)のた(め)少(すこ)しの期(き)間(かん)のつ(も)り(で)末(すえ)娘(むすめ)と一(いっ)緒(しょ)に來(き)ま(し)たが、程(ほど)なくして元(げん)氣(き)だ(つ)つた父(ちち)が倒(たお)れ、その病(びょう)状(じょう)は重(おも)く、歸(かえ)るに歸(かえ)れな(く)な(つ)てい(ま)した。丁(ちよう)度(ど)その頃(ころ)、主(しゅ)人(じん)の母(はは)が亡(な)くなり、それ(を)機(き)に主(しゅ)人(じん)がこ(ち)らに來(く)る形(かたち)で新(あたら)しい生(せい)活(かつ)を始(はじ)めました。で(す)がこ(の)度(たひ)、その末(すえ)

だけ(で)の礼(れい)拜(はい)や短(みじ)く分(わ)かりや(す)いメッ(メッ)セー(ジ)、教(きょう)会(かい)内(ない)の(と)ても良(よ)い雰(ふん)圍(い)氣(き)をす(つ)かり氣(き)に入(い)り、折(おり)を(み)て父(ちち)を誘(さそ)いま(し)た。す(で)に受洗(じゅせん)した主(しゅ)人(じん)もさ(げ)氣(き)なく勸(すす)め、親(しん)族(ぞく)が一(ひと)つとな(つ)て更(さら)に祈(いの)りをさ(さ)げ(ま)した。そ(し)て、つ(い)に父(ちち)は教(きょう)会(かい)へ行(い)くこ(と)を聞(き)入(い)れた(で)す。それ(か)ら(と)い(う)も(の)毎(まい)週(しゅう)樂(らく)し(み)に(し)て(は)と(ん)ど休(やす)ま(す)行(い)き(ま)した。父(ちち)もまた、丹羽(にわ)先(せん)生(せい)の言(ごん)葉(えつ)遣(けん)いや優(やさ)しい対(たい)応(おう)、そ(し)て温(あたた)かく迎(むか)え入(い)れ(て)く(だ)さ(る)皆(みな)様(さま)のお氣(き)持(も)ちを(と)ても嬉(うれ)しく思(おも)っ(て)いた(よ)う(で)す。そ(し)て、何(なん)度(ど)も医(い)者(しゃ)に危(あぶ)ないと言(い)われ弱(よわ)切(き)っ(て)いた父(ちち)の身(み)体(たい)は、本(ほん)來(らい)な(ら)相(そう)當(とう)き(つ)い(は)ず(で)し(た)が、日(にち)曜(よう)の朝(あさ)にな(ると)元(げん)氣(き)を取(と)り戻(もど)し進(すす)んで身(み)支(し)度(ど)を整(ととの)え喜(よろこ)んで行(い)く(の)で(し)た。し(か)し、帰(かえ)宅(たく)後(ご)は(づ)つと辛(つら)そうに横(よこ)にな(つ)てい(ま)した。そ(んな)姿(すがた)を見(み)る(た)びに神(かみ)様(さま)の奇(き)跡(せき)を感(かん)じ(ら)れ(ず)に(は)い(ら)れ(ま)せ(ん)で(し)た。さ(ら)に、先(せん)生(せい)方(かた)が(お)話(わ)しく(だ)さ(る)御(み)言(ごん)葉(え)を父(ちち)

はよく理解してしまいました。そしてイエス様を受け入れる決心をし、受洗の恵みに与ることとなり、父は正しく生まれ変わったのです。何より家族に「愛している」と声をかけ、孫たちの頬にキスするような可愛いおじいちゃんになって甘え、人を寄せ付けるその雰囲気は以前とは全く印象が変わって、皆を驚かせました。本当に「奇跡」としか言いようがありません。最後に父も家族に心をゆるすことが出来て幸せだったと思います。また、私たちも「ありがとう」と言って旅立った父が、「天国へ行った」という確信をもって平安をいただいています。

これらたくさんさんの経験を経て、私の信仰は強められ、さらに親族間の絆も一層深められました。特に、父に対して個々に抱いていた長年のわだかまりも、神様のお取り扱ひの中で、互いに許し合い、愛し合うことが出来て、きれいに洗い流されたと皆

ちよつと

立ちばなし！ 教会ではいつもイエス様の

ハナシでいっぱい

あちやんちやんから聞かされてくるステキなお証しをお届けします

原田泰子姉

同居している嫁はクリスチャンではありません。

でも、家庭で祈ることはごく自然な事として受け入れていきます。先日、彼女が中国の実家へ帰省する際、家族みんなで祈ってから送り出してやりました。

その留守中に孫が、「どうして、おばあちゃんは今クリスチャンになったの？」とたずねてきたので、「おばあちゃんのお父さんがクリスチャンでね・・・」と、父からの信仰について聞かせてやりました。孫は興味深く聞き入っていました。思い返せば、父は事あるごとにイエス様のことを私たち子供に伝えて

が感じています。このように証しする度に、神様は父の最後に良い証しをたててください、私達を周囲への光としてくださいとお願いしています。

神様のご計画はわかりません。しかし、私は使命をもってここへ呼び戻されたと感じています。与えられる使命がどんなに大変であっても、信じ従い祈り続けていけば、神様は数えきれないほどの大きな恵みを与えてくださり、その場に居て光となるよう使ってくださることを教えてくださいました。

これまでお世話になりました先生方、皆様、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。残ります母をどうぞよろしくお願いいたします。



くれていました。兄弟ゲンカを告げ口に行った時も父は、「イエス様は何と言ったか？ 右の頬を打たれたら、左の頬も差し出せ」と言っていたら、「さう」と言ったので、「もう、そういう話じゃなくてー！」って、その時は思いましたが、さうやって一つ一つ伝えてくれたいたんですね。そんな父を懐かしく想いながら、私なりに父の信仰を受け継ぎ、そして今、孫へと伝えられるのは幸いです。ですから、私も事あるごとにイエス様の事を孫に、また嫁にも話してあげたい。そうしなければ伝わりませんものね。

嫁が帰省した日、彼女の好物をそろえて待っていると、早々に「おかあちゃん、祈って」と頼むので、「ああ、いいよ」と感謝の祈りをみんなでささげました。とつても喜んでくれる嫁の姿に嬉しくなります。彼女がクリスチャンになってくれる日は近いと信じて、今は祈りながらその時を待っています。



みことばの小箱

年初めにいただいた御言葉は何でしたか？

毎年恒例 | それぞれ違った御言葉が入っている小箱を一人ひとり選び取りました。

栃沢千秋兄 詩篇16篇11節／リビンググバイブル
神様は生きる喜びを教え、永遠に伴ってください。
さることによって、無上の楽しみを経験させてくださいます。

*私は白寿近くまで生かされており、生きる喜びにひたっております。また、やがて御国に帰る折には主より永遠に生きる命を賜ることを信じて暮らしており、感謝な生活に勤しんでおります。

だけ先生方のお話しは毎日の励みになっています。

須山フミ姉 ヨハネ6章47節／新共同訳

はつきり言っておく。
信じる者は永遠の命を得ている。

*心にピッタリくる御言葉で「ありがとうございませ」という気持ちでした。本当に御言葉というのは感謝です。ですから教会へは欠かさず行かなくては励んでいます。

松井明子姉 詩篇51篇12章／新共同訳

神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください。

*新年に相応しい聖句で、しかも、いつも願っている事でしたので私の心にピッタリだなあ、と嬉しくなりました。とくに「確かな霊」を授けていた

山田初子姉 詩篇37篇34節／リビンググバイブル
神様が乗り出される時を、じつとしんぼうして待ちなさい。そして、神様の道をしっかりと歩んで行くのです。

*最近、行き詰まりを感じていたので、この御言葉は嬉しかった。ある方から頼まれて礼拝後に活花を教えるようになってから、これまでにない新しい奉仕の一つだと思えて逆に励まされています。こんな者でもまだ役にたっているなら感謝です。

石田喜子姉 詩篇37篇3節／口語訳
主に信頼して善を行え。

そうすればあなたはこの国に住んで、安きを得る。
*毎年、新聖歌の後ろのページに貼って心掛けるようにしています。とても身体の具合が良くない日でも礼拝や集会は休みたくなってしまう。それ

きたいと長年祈っています。

山内佳子姉 詩篇37篇5節／新改訳

あなたの道を主にゆだねよ。
主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。

*昨年12月に美香先生より、礼拝の司会奉仕のお話があり、突然のことで「自分に出来るのか？」と、びっくりしました。そして、「主の御心ならば従います」とお答えしました。もし、従わなければ神様に「私はあなたを知らない」と言われたら困ると思いました。そして素晴らしいことに、新しい年に必要な力強い御言葉をいただきました。

「神様、あなたがなさって下さい」

土屋礼子姉 詩篇90篇12節／口語訳
われらにおのが日を数えることを教えて



知恵の心を得させてください。

*今まで色々なことがありましたが、主がすべてを善きに成してくださったことに感謝しています。これからも主と共に歩ませてくださいと祈り、常に御言葉にふれるよう心がけています。

高田信子姉 ペテロ第15章7節／新共同訳

思い煩いは、何もかも神にお任せください。

神が、あなたがたのことを心にかけてくださる

からです。

*私にピッタリだと思って嬉しかったです。いつも心配事がある時は朝夕の祈りの中で神様にお話しています。私は何も出来ないけれど、神様は何でもお出来る。だから安心して任せられます。

主人が亡くなって22年。これまで家庭内の事は主人の分も務めてきたので苦勞もありました。です



「希望の家」 食事作り

サンパウロ郊外にある重度心身障害者療護

教育施設「希望の家」への教派の垣根を越えた奉仕活動が、日系キリスト教団の呼びかけにより始め

られ、当教会も40年ほど前から参加しています。

報告者／原田泰子姉・吉加江紀子姉

3月27日と28日(金・土)の両日、のべ18名の奉仕者で、ちらし寿司100人分とパステス

250個を作りました。

こちらの食目は40年間、変わりなく続けられています。毎回「今年は別の献立にしましょうか？」

と問い合わせると、「いいえ、みなさんとても楽しみにしていますから、ちらし寿司にしてください」と言われるほど毎年大好評をいただいています。それを

が、今では孫4人の恵まれた生活です。同居して

いる4歳の孫娘を働く娘に代わって世話をしています。責任を感じながら何かある度に神様に祈りお任せしています。孫娘は仕事に出る母親に向かつて「ママ、神様と一緒に行って来て！」と声をかけます。そんな孫にイエス様のことをちやんと伝えてやりたい、そう思つて時折イエス様の絵本を読み聞かせ、祈りながら全てをお任せしています。

社会福祉支援・活動報告



信仰に基づく「愛の業」で社会貢献を目的とした活動が女性部によって続けられています

受け今年は一層、具材の種類も量も増やし彩りよく仕上げました。

奉仕者は例年に比べ少なかったものの、ポ語部から4名のお手伝いをいただいて、手慣れた者たちがそれぞれ担当に分かれ「あうん」の呼吸で手際よく、冗談も飛び交いながら和気あいあいと終始笑顔で進められました。また、食材の買い出しのほとんどをアルベルト兄(長谷川姉の夫)が引き受けてくださつて、とても助かりました。

これからは日語部だけの奉仕ではなく、ポ語部からの助け人も加わつて、段々とポ語部へと移行させいくことにより「サウーデ教会の奉仕活動」として、この先も実行してゆきたいと願つております。

その他、献品では紙オムツや衣料品をたくさんと、支援金として1000レアル(有志ならびに女性会通常会計より)を共にお渡ししました。

「ご奉仕くださいました姉妹方、ならびに献品・献金をお奉げくださった方々に心よりお礼申し上げます。



「ひまわり学園」支援について

報告者／長谷川美代枝姉

サウーデ女性会がサンレモ地区のひまわり学園支援を始めて、今年で20年になります。「貧しいこの地区に福音を」との依頼を中西むつし兄から受け、当時の副牧師、岡田カーチャ師が、グエン宣教師と共に、一軒一軒訪ねて、「地区に必要なことは」と尋ねました。その結果、一番、求められたことは保育園でした。共働きの家庭では、子供の行き場がないこと、鍵をかけて出かけるなどの声がありました。そこで、サンレモ地区の一角に建てられた住民の集会場を借りて、数人の子供達から始められ、数年後に

土地が与えられ（アメリカから献金）、今日の学校が建てられました。サウーデ教会が語部の青年達、州立学校教師の奉仕によって進められたのです。現在も毎週、子供達の補習、聖書の学びと続いていきます。だんだんと父兄が集まり、家庭集会、伝道所へと体制が整えられていきました。今は、サンレモ教会となり、宮平エウビオ牧師が責任者で、サウーデ教会の管轄です。

ひまわり学園の第一期生はすでに社会人です。そして多くの大学生もいます。ひまわり学園はスポーツにも力を入れています。また、女性が少しでも自活できるようにと始めた手仕事のサークルが人気を集めています。

年末には女性会通常会計から「愛の贈り物（ナールプレゼント）」をしています。毎月支援金を奉げて下さる姉妹方にお礼を申し上げます。

子供達が悪にそまらず、福音を聞いて、神に喜ばれる人生が送られるように、また、用いられる人となるように、続けてお祈りをお願いします。

感謝を持って

サウーデ女性会役員会

社会福祉支援活動に、さらなる皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い致します。

俳句



松井明子姉

海行きの句会も流れ窓の秋

母鳥に遅れまいとて渡り鳥

うす煙静かに眠る日いつぞや

益本藤子姉

詩



愛のことば

m・n

「おはよう」「こんにちは」

「さようなら」「おやすみなさい」

こんな言葉の中に営まれる我らの生活

「ご機嫌いかがです」「いい天気ですね」

「お孫さん大きくなったでしょう」「お大事に」

こんな言葉によって潤される我らの生活

いつも美しい言葉をいのりのうちに

豊かに貯えよう

折にかなう愛の言葉を

さりげなく使いなす人になりたい

よしまたたとえこちらの好意が受け入れられず

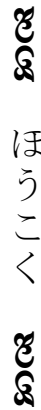
思わぬ壁にぶつかって

胸に憎悪の槍先を突きつけられる

そんな時にも につこり笑って 愛の言葉で
包んでゆこう

その槍先が悲しくもこの胸を突き貫いたその時は
苦痛にゆがむ唇に 備えたまえ 主イエス様

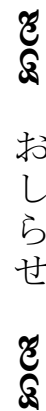
「父よ 彼らを許したまえ・・・」と
あなたが叫んだ そのように



4月5日の洗礼式で、鈴木弘子姉が受洗
されました。

「導いていただいた先生方ありがとうございます。感謝で胸がいっぱいです。洗礼を受けてから、よりイエス様が身近に感じられ、守ってくださいている平安をいただいています。先生方のメッセージは、いつも分かりやすく心に伝わってきます。本当にサ

ウーデ教会へ導かれ良かったと思います。これからは皆様と一緒に教会生活を歩んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします」
鈴木姉、おめでとうございます！
共に愛と祈りをもつて歩んでまいりましょう。



*一日研修会 テーマ「主の日に備えよ」

自由メソジスト教団・日語部女性会主催
6月4日(木曜日)・サウーデ教会

受付ー午前8時30分

開始ー午前9時30分解散予定

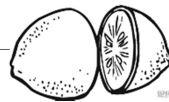
講師ー大嶋武郎師・丹羽美香師

聖句「目をさまして慎んでいよう」

テサロニケ第一 5章6節

あとがき

今回は新しいコーナーが加わり、たくさんのお証しをいただいて、さらに充実した紙面となりました。ありがとうございます。「ちよつと立ちばなし」は、ちよつとした合間にやり取りされた本当の立ち話です。ですから、気楽に声をかけてくだされば嬉しいです。「みことばの小箱」で、皆さんの新年の御言葉を是非ご紹介ください。お証しの原稿はいつでも受け付けています。聞き取りも喜んで奉仕させていただきます。(おぼろ)



おためしあれ

4月の昼食会で出された 豆乳のレモン味ゼラチーナをご紹介します

☆☆材料(6人分)☆☆ レシピ:長谷川美代枝姉

レモン味ゼラチーナ1箱(30g) / 豆乳400cc / 水100cc

☆☆作りかた☆☆

- 100ccの水を沸かす
- この①の中にレモン味ゼラチーナを入れて、粒がなくなるまで混ぜる
- 豆乳400ccを入れて、さらによく混ぜる
- ガラスの器に入れて冷やす(約10時間)
- 切り分ける ※一人用のカップに割り入れれば食べやすい

☆☆ソース☆☆ 先日は、ゼラチーナの上にマーマレード(オレンジジャム)をかけて召し上がっていただきましたが、桃缶を一口大に切って乗せても手軽に美味しくできます。また、グアバの季節にはグアバの砂糖煮がとっても合います。

<http://saudekyoukaijindo.com/> での
教会ホームページ、または、Facebook で
礼拝メッセージが動画でご覧になれます。